

2022年度事業報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

公益財団法人 理想教育財団

2022年度実施事業の内容

事業区分一覧

事業区分		内 容
A 調 査 ・ 研 究 事 業	A-1	学校情報伝達システムの調査・研究 通信づくり講習会等、教師または大学の教職課程の学生を対象とした講習会の実施 学校における通信活動の教育効果についての調査・研究 いじめのないよりよい学級づくりの調査・研究(2021.4 A-3から移動) 調査研究活動の発表会等の開催
	A-2	教師による自作教材の調査・研究 学習プリントをカラー化することによる教育効果・視覚的効果などの調査・研究
	A-3	児童・生徒による創作表現活動の調査・研究 はがき新聞の教育効果に関する調査・研究 調査研究活動の発表会等の開催
B 情 報 提 供 事 業	B-1	教育関連出版物の刊行 通信づくりに役立つ冊子等の刊行
	B-2	研究情報誌の発行 「季刊理想」の発行
	B-3	ホームページの運用 事業の告知や活動報告、情報開示のほかプリントコミュニケーション活動に役立つ情報を提供する。
C 助 成 ・ 顕 彰 事 業	C-1	後援・支援の事業 臨書と自由書作品展の共催 文化芸術教育の充実に関する事業への助成、その他プリントコミュニケーション活動の発展に関わる事業への助成
	C-2	新聞教育の普及・振興 全国小・中学校・PTA新聞コンクールの後援 全国新聞教育研究大会の後援 地域の新聞教育に対する支援
	C-3	日本人学校等への支援・助成 海外日本人学校に対する児童図書寄贈 その他海外への教育支援
	C-4	コンクールの開催・顕彰 プリントコミュニケーションひろばの開催

【A】調査・研究事業

A-1 学校情報伝達システムの調査・研究

(1) 調査・研究活動等

A-1	①中部学級力向上研究会(共催)
日 時	6月4日(土)13:00～16:45
場所・参加者	名古屋市教育館+オンラインのハイブリッド運営 参加55名(うちオンライン参加23名)
内 容	・学級力向上プロジェクト実践報告 3件、他 (犬山市立楽田小 古市博之先生、幸田町立南部中 堀田 琢司先生、日進市立日進中 河村 敏文先生) ・大阪大谷大学 教授 今宮信吾先生による指導講評 ・早稲田大学教職大学院 教授 田中博之先生による総括
A-1	②AI時代の教育学会
日 時	6月9日(木)12:00～13:00、9月17日(土)13:00～14:00
場所・参加者	オンライン運営 参加15名
内 容	・今後のICTの普及による教育のあり方の変化に対応すべく加入。学校現場のICTの動向調査の一環として、また財団活動の参考団体として注視していきたい。
A-1	③関西学級力向上研究会(共催)
日 時	6月26日(日)13:00～17:00
参加者	梅田センタービル 参加20名 (1名のみオンライン参加)
内 容	・学級力向上プロジェクト実践報告 2件、他 (尼崎市立小園小学校 宇都 亨先生、帝塚山学院小学校 井原 暢子先生) ・早稲田大学教職大学院 教授 田中博之先生による総括
A-1	④教師力向上研究会(協賛)
日 時	7月23日(日)13:00～16:20
場所・参加者	大阪大谷大学ハルカスキャンパス 参加 約50名
内 容	・インクルーシブ教育、一人一台端末、協働的な学び等、最前線で求められる学校教育についての講演。 ・兵庫教育大学 名誉教授(聖ウルスラ学院 理事長) 梶田 叡一先生による総括講演。
A-1	⑤中部学級力向上研究会(共催)
日 時	10月15日(土)13:00～16:45
参加者	オルバースビルディング名古屋+オンラインのハイブリッド運営 参加53名(うちオンライン参加19名)
内 容	・事例5件の発表があった。(桐生市立桜木小学校 林秀樹先生、一宮市立木曾川東小学校 櫻井純代先生、名古屋市神宮寺小学校 日比野浩規先生、関市教育委員会 亀山雅之先生、豊田市立元城小学校 鈴木早紀恵先生) ・田中博之先生より総評
A-1	⑥関西学級力向上研究会(共催)
日 時	10月16日(日)13:00～16:45
場所・参加者	梅田センタービル 参加18名 (1名のみオンライン参加)
内 容	・事例3件の発表があった。(堺市立浜寺小学校 藤井幸一先生、はつしば学園小学校 平林千恵先生、津山市立津山東中学校 熊瀬功督先生) ・田中博之先生より総評、愛知教育大学 准教授 磯部征尊先生より指導助言

A-1	⑦関東学級力向上研究会(共催)
日 時	10月22日(土)13:30～16:30
参加者	オンライン開催 参加26名
内 容	・事例3件の発表があった。(大磯町立大磯小学校 和田幸江先生、厚木市立緑ヶ丘小学校 芳賀誠先生・井上雄介先生、小田原市立中学校 大島友紀先生) ・田中博之先生より総評。

写真①

A-1	⑧東洋大学文学部 教職実践演習 第1回目「はがき新聞講座」(講師派遣)
日 時	11月7日(月)13:00～14:30
場所・参加者	東洋大学 教室 参加30名
内 容	・講座内容は4月に教職についた場合を想定した“自己紹介新聞”の作成。 ・講師は新聞教育支援センターの吉成勝好先生を派遣。

写真⑤

A-1	⑨東洋大学文学部 教職実践演習 第2回目「通信講座」(講師派遣)
日 時	11月14日(月)13:00～14:30
場所・参加者	東洋大学 教室 参加27名
内 容	・学級通信づくりの意義～具体的な制作までの指導を実施。 ・講師は引き続き吉成勝好先生を派遣。

A-1	⑩中部学級力向上研究会(共催)
日 時	2月4日(土)13:00～17:00
参加者	オルバースビルディング名古屋+オンラインのハイブリッド運営 参加96名(うちオンライン参加46名)
内 容	・事例6件の発表があった。(知立市立知立西小学校 成瀬雄志先生、近藤大嗣先生、近藤隼渡先生、金沢学院大学 向田識弘先生、千歳市立信濃小学校 佐藤宏先生、大口町立大口中学校 兼松健太郎先生、安藤佑真先生、網走市立南小学校 篠原諒伍先生、日進市立日進中学校 河村敏文先生) ・指導・助言:筑波大学人間系助教 京免徹雄先生 ・特別講演:愛知教育大学教職大学院教授 井上正英先生 ・田中博之先生より総評。

A-1	⑪関西学級力向上研究会(共催)
日 時	2月5日(日)13:00～17:00
参加者	梅田センタービル 参加23名
内 容	・事例5件の発表があった。(尼崎市立小園小学校 宇都 亨先生、武田 由季先生、京都聖母学院小学校 清水 生恵先生、富田林市立向陽台小学校 仲野 和義先生、桃山学院教育大学学生2名) ・田中博之先生より総評。

A-1	⑫関東学級力向上研究会(共催)
日 時	2月11日(土)13:30～16:30
参加者	オンライン開催 参加30名
内 容	・事例3件の発表があった。(本庄市公立小学校 新井瑠香先生、厚木市公立小学校 高橋亮太先生、東京都公立小学校 小松陽子先生) ・田中博之先生より総評。

(2) 調査研究活動の発表

A-1	①学級力向上プロジェクトオンラインフォーラム
日 時	8月27日(土) 13:00～16:10
場所・参加者	東京 東日本橋スタジオよりWebinar×YouTubeでライブ配信 申し込み179名
内 容	・関東、中部、関西の各学級力向上研究会合同の実践事例発表会 《イントロダクション》 早稲田大学教職大学院 教授 田中 博之 先生 1. 学級力向上プロジェクト はじめの一步 西東京市立本町小学校 内藤 一貴 先生 小幡 貴司 先生 2. 関市全体で行う学級力向上プロジェクト 関市教育委員会 課長補佐 亀山 雅之 先生 3. 子どもの主体的参加を促す学級力向上プロジェクト 文京区立小日向台町小学校 安部 徹 先生 横浜国立大学教職大学院 准教授 藤原 寿幸 先生 4. パネルディスカッション 学級力向上プロジェクトを進める秘策 コーディネーター 愛知教育大学 准教授 磯部 征尊 先生 パネリスト 帝塚山学院小学校 井原 暢子 先生、日進市立日新中学校 河村 敏文 先生 八幡市立中央小学校 水谷 智明 先生、西村 知夏 先生 5. 総括 大阪大谷大学 教授 今宮 信吾 先生

(3) 研修会・資料作成等

A-1	①西東京市立本町小学校 学級経営研究会(講師派遣)
日 時	4月4日(月)13:00～15:00
場所・参加者	本町小学校教室 参加19名
内 容	・本校が2023年に全国学級経営研究会全国大会の会場校になることから事前準備のため本校の中村校長から要請があり早稲田大学の田中博之先生を派遣。

A-1	②愛知教育大学公開講座(資料支援)
日 時	6月18日(土)8:00～12:00
場所・参加者	愛知教育大学 参加7名
内 容	・講師は愛知教育大学准教授 磯部征尊先生。 ・「問題解決的な学習の進め方」 子ども発の学習課題を立てて進める授業づくり、振り返りによる深い思考への誘いと「はがき新聞」の活用について。

A-1	③新潟市立東新潟中学校 教員向け講習会(講師派遣)
日 時	7月6日(水)15:00～17:00
場所・参加者	東新潟中学校教室 参加35名
内 容	・講師は愛知教育大学准教授 磯部征尊先生。「学級力とはがき新聞を活用した学級づくり」と題し、子どもたちの主体的な学級課題の抽出の促し方などについて、演習を交え研修が行われた。

A-1	④西東京市立本町小学校 教員向け研修会(講師派遣)
日 時	8月29日(月)10:00～12:00
場所・参加者	本町小学校教室 参加20名
内 容	・講師は早稲田大学教職大学院 教授 田中博之先生、横浜国立大学教職大学院 准教授 藤原寿幸先生。 ・「学級力向上プロジェクト」の実践指導

A-1	⑤第49回全国学級経営研究大会 東京大会(講師派遣)
日 時	1月27日(金)11:00～16:45
場所・参加者	東京都西東京市立本町小学校 参加 約200名
内 容	・講師は横浜国立大学教職大学院 准教授 藤原寿幸先生。 ・「学級力向上プロジェクト」の実践指導

A-1	⑥初任者指導法の研究支援・冊子化
日 時	3月
研究者	市川市立百合台小学校 富永加代子先生
内 容	・初任者指導教諭の富永先生作成の初任者向け指導内容をまとめた「初任者指導だより」の編集支援と公開資料化支援。 ・130冊を提供、近隣小中学校および教育委員会に配布。

※④

A-2 教師による自作教材の調査・研究

A-2	①「学習プリントをカラー化することによる教育効果や視覚効果などについての調査・研究」
内 容	・助成品として「2色プリントの活用事例」を配布。 ・授業実践事例の作品集を作成。

A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究

「はがき新聞の教育効果に関する調査・研究」

調査・研究対象について

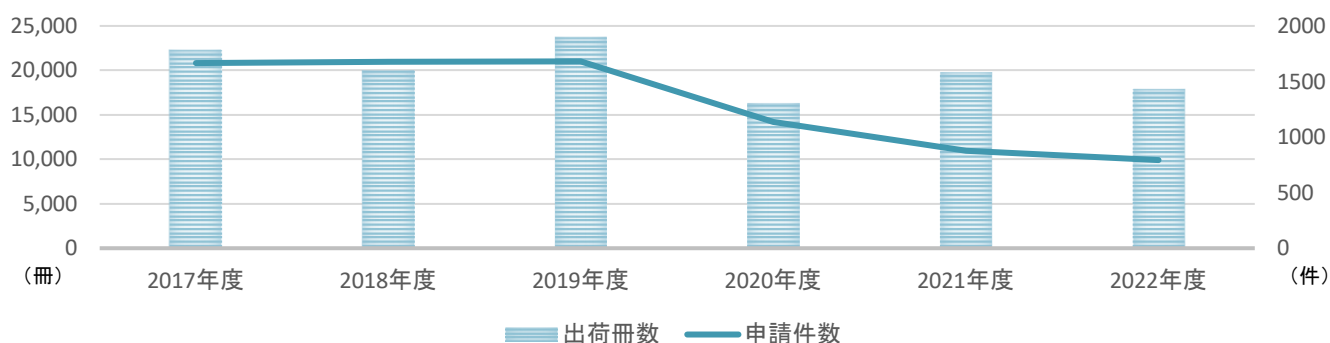
*学習指導要領の「言語活動の充実」を図るため、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を高める教育手法として「はがき新聞づくり」を推奨。「はがき新聞づくり」は単なる行事、体験の報告に留まらず、多くの教科での活用が可能である。調査研究「コンパクトテキストによる文書表現力育成研究」の対象として、物語文以外に短歌俳句や特別の教科道徳を含むこととした。

また、学校教育の様々な局面においての「はがき新聞」活用の一環として学習支援プログラムを開発した。

(1) 主な活動状況

A-3	①実践援助としての助成状況 2023年3月末現在			・特別助成校(プリンター付) ・一般助成校(プリンター無し)
	特別助成校	一般助成校	合計	
小学校	367	1,466	1,833	*全国の小中学校の累積普及率 2,913校 / 29,351校 <u>9.92%</u> ※高校・特別支援学校・中等教育学校を除く 学校数は文部科学省 令和4年度学校基本調査を参照
中学校	172	908	1,080	
小・中学校計	539	2,374	2,913	
高校・特別支援等※	13	75	88	
助成校 総計	552	2,449	3,001	
2022. 3末	582	2,336	2,918	
増減	-30	113	83	

A-3	②はがき新聞 助成品(原稿用紙)出荷数推移 2023年3月末現在						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
出荷冊数	22,255	19,937	23,705	16,283	19,756	17,902	
申請件数	1664	1,676	1,681	1137	878	793	
出荷冊数/件	13	12	14	14	23	23	



A-3	③はがき新聞等の推進活動
内容	新規助成品の開発及び終了 ・はがき新聞5mmヨコ、6mmヨコの終了 ・助成品一覧の更新

(2) はがき新聞の教育効果についての研究委託

A-3	①研究テーマ「コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究」
内 容	コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究(「はがき新聞」を「コンパクトテキスト産出」型の取り組みとして位置づけ、学校教育の様々な局面においていかに応用できるかを考えるとともに、語彙教育への活用法を開発する)
実施期間	2022年4月1日～2023年3月31日
研究委託者	早稲田大学文学学術院 教授 森山卓郎先生 1982年京都教育大学卒、1985年大阪大学大学院文学研究科博士課程修了、1988年同大学講師、1990年京都教育大学助教授、2004年同教授、2008年より附属幼稚園長を兼任、2012年より早稲田大学文学学術院教授、京都教育大学名誉教授。

A-3	②研究テーマ「はがき新聞用紙を活用したコンパクトライティングを位置付けた単元学習の方法」
内 容	「主体的・対話的で深い学び」を実現する言語活動、特に書く事とのかかわりを考察し、はがき新聞用紙を活用したコンパクトライティングにより実現できる指導法について有効な提案を解明する。
実施期間	2022年4月1日～2023年3月31日
研究委託者	佐賀大学 教育学部 国語科教育 教授 達富洋二先生 離島の小規模公立小学校、都市部の公立小学校、国立大学附属小学校および小中学校など、約20年間の小中学校での実践を経て、現在は佐賀大学に勤務。長崎大学非常勤講師。九州教室の声に学ぶ会をはじめ、長崎、佐賀、熊本、鹿児島など、九州各地で研究会を主宰。

A-3	③研究テーマ「学級力を高める探究的な学習を取り入れた授業方法の開発研究 ～はがき新聞を表現ツールとして活用して～」
内 容	子どもたちが主体的・協働的に学級づくりを行う力を育て、はがき新聞を表現ツールとして活用して新しい授業方法を研究開発してゆく。
実施期間	2022年4月1日～2023年3月31日
研究委託者	早稲田大学教職大学院 教授 田中博之先生 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程在学中に助手となり、大阪教育大学助教授・教授を経て、2009年4月より現職。文部科学省「全国的な学力調査に関する専門家会議」委員(2007年～2018年)。専門は、授業デザイン・学習指導論。

(3) 調査・研究活動等

A-3	①第66回全国特別活動研究協議大会 東京大会
日 時	8月5日(金)～6日(土)
参加者	国立オリンピック記念青少年総合センター
内 容	・講演:安部恭子氏(文部科学省) 演題「未来に向け新たな価値を生み出していく力を育む特別活動」 他、全12分科会において計35名の発表者による提案があった。

A-3	②はがき新聞研究会(関東・関西合同)
日 時	10月2日(土)13:00～16:15
参加者	オンライン開催 参加24名
内 容	・「はがき新聞学習支援プロジェクト」についての進捗報告と意見交換を実施。 ・各参加者の近況報告を実施。

A-3	③はがき新聞オンラインフォーラム
日 時	3月19日(日) 13:00～16:10
場所・参加者	東京 市ヶ谷スタジオよりYouTubeでライブ配信 申し込み155名
内 容	イントロダクション「言語能力を高めるために」 早稲田大学文学学術院 教授 森山 卓郎 先生 1. はがき新聞の基本と効果について はつしば学園小学校 教諭 平林 千恵 先生 2. 単元に「学習課題《私の問い》一枚に書くこと」を位置付けることの手ごたえ 佐賀市教育委員会 指導主事 西原 宏一 先生 3. パネルディスカッション「コンパクトに書くことの効果 ―書く力、考える力の向上を目指して―」 コーディネーター 佐賀大学 教育学部 教授 達富 洋二 先生 パネリスト 盛岡市立松園中学校 教諭 川崎 美希子先生 摂津市立味生小学校 教諭 梶田 大助先生 教諭 谷本 千春先生 京都市立竹の里小学校 校長 松本 亜紀子先生 大阪大谷大学 教授 今宮 信吾 先生 4. はがき新聞学習支援プロジェクトの紹介

(4)研修会・資料作成等

A-3	①市川市立百合台小学校新聞教育研修会 教員向け研修会
日 時	7月12日(火) 15:45～16:45
場所・参加者	百合台小学校教室 参加11名
内 容	・講師は市川市立百合台小学校 教諭 富永加代子先生。 ・新聞教育の概要と可能性についてのレクチャー、新聞を取り入れた教科指導の学習効果を上げるための実技演習が行われた。

A-3	②堺市立福泉中央小学校 教員向け研修会(講師派遣)
日 時	7月29日(金) 9:00～10:30
場所・参加者	福泉中央小学校教室 参加21名
内 容	・講師は帝塚山大学 准教授 徳永加代先生 ・教員向け研修会として「はがき新聞の活用について」演習を交え実戦的な内容で行われた。

A-3	③九州 教室の声に学ぶ会 長崎の集い 教員向け研修会(後援)
日 時	9月23日(金) 13:00～16:30
場所・参加者	長崎市出島メッセ 参加40名
内 容	・主宰は、佐賀大学 教授 達富 洋二 先生。 ・単元にコンパクトライティングを取り入れることの効果と題し、はがき新聞の活用による学力向上効果について定量的な分析結果の報告が行われた。 ・他、コンパクトライティングの演習、「校内研究が学校を成長させる」と題し対談が行われた。

【B】情報提供事業

B-1 教育関連出版物の刊行

B-1	①刊行物の発行・増刷
内 容	・通信づくりの支援冊子として「著作権ガイド」を発行 ・既存刊行物の増刷

B-2 研究情報誌の発行

B-2	①機関誌『季刊理想』の発行
内 容	・6月(夏号)9月(秋号)12月(冬号)3月(春号)発行。読者拡大のため多彩な記事を掲載するよう新規助成品の紹介や、またエッセイの寄稿者選考への配慮など紙面の充実を図った。

B-3 ホームページの運用

B-3	①常に新鮮な情報をアップ
内 容	・助成物品申込システム更改 ・各種助成品の紹介や、申し込み窓口としての機能充実を図った。 ・「はがき新聞学習支援プロジェクト」のページ開設に向けた準備を実施した。(2023年5月公開予定)

【C】助成・顕彰事業

C-1 後援・支援事業

C-1	①令和4年度横浜市立学校総合文化祭(協賛)
日 時	7月2日から2月22まで各分野ごとに開催
内 容	・協賛金拠出(開催ポスター制作代等の補助)

C-1	②京都市小学校教育研究会 青年教員・幹事研修会(講師派遣)
日 時	10月14日(金)18:00～19:30
場所・参加者	京都市総合教育センター 参加 約150名
内 容	・特別講演の講師として全国ICT教育首長協議会 特別顧問 毛利靖先生を派遣。 ・「GIGAスクール構想充実期における学び ～Society5.0時代を見据えて～」

C-1	③愛知教育大学スクールリーダー研修(後援)
日 時	12月10日(土)13:00～17:00
場所・参加者	名古屋国際会議場 参加143名
内 容	・学校管理職のリーダーシップ向上を目的とした研修会。 ・愛知県内の小中高等学校 校長、教頭、指導主事が参加。 ・愛知教育大学教職大学院 教授 井上正英先生、幸田町教育長 池田和博先生、静岡文化芸術大学 教授 倉本哲男先生が講演、財団からは沿革、事業内容を紹介しPRを実施。

C-1	④小中学生記者の文化財取材コンクール 主催 京都古文化保存協会 (後援)
日 時	12月11日(日)14:00～15:30
場所・参加者	京都市 北野天満宮 参加21名(うち はがき新聞8名)
内 容	・子供たちが重要文化財の消防訓練を体験、取材し、小学生ははがき新聞を作成、中学生は記事の部・写真の部いずれかに応募。賞は京都市長賞、京都府教育長賞、京都新聞賞、理想教育財団賞他。

写真⑤

C-2 新聞教育の普及・振興

C-2	①千葉県新聞教育研究会例会(会長 小嶋享治先生)
日 時	①4月27日(水)18:00～20:00 ②5月25日(水)18:00～20:00 ③6月29日(水)18:30～20:30 ④7月13日(水)18:00～20:00
場 所	全日警ホール2階会議室 参加 各回25名～30名程度
内 容	・全国新聞教育研究会の全国大会千葉大会 8月開催に向けた準備を行った。
C-2	②全国新聞教育研究大会2020+2 千葉大会(後援)
日 時	8月2日(火)～3日(水)
会場・参加者	市川市全日警ホール 参加227名
内 容	・大会主題:明日へ向かって生きる力を育む新聞教育。 ・公開授業 2件、研究分科会 4件。 ・印刷機を貸出し、現地で印刷支援を実施。
C-2	③第27回NIE全国大会 宮崎大会
日 時	8月4日(木)～5日(金)
参加者	宮崎市民文化ホール、宮崎公立大学 参加 約1,100名
内 容	・大会主題:いま開き 未来を拓くNIE。 ・公開授業 6件、実践発表 6件、共同発表 1件。 ・講演:吉野 彰氏(2019年ノーベル化学賞受賞者) 演題「リチウムイオン電池が拓く未来社会」。
C-2	④沖縄NIEセミナー(講師派遣)
日 時	10月29日(土)14:00～16:00
場所・参加者	琉球新報社会議室 参加27名
内 容	・対面での開催は3年ぶりで「はがき新聞」制作セミナーを開催。 ・講師は大阪大谷大学 今宮信吾教授を派遣。
C-2	⑤岩手県新聞教育研究会協議会 学校公開研究会(講師派遣)
日 時	11月2日(水)13:15～16:45
場所・参加者	北上市立黒沢尻東小学校 参加 約150名
内 容	・各学年における公開授業が開催された。 ・特別講演にNIEコーディネーター関口修司先生を派遣。

C-3 日本人学校等への支援・助成

C-3	①海外日本人学校等への支援・助成
内 容	公益財団法人海外子女教育振興財団との連携により日本人学校、補習授業校等へ児童図書を寄贈。
寄贈先	海外子女教育振興財団と今期の図書寄贈先について検討。日本人学校、補習授業校の情報を基に10校を決定した。ヤンゴン日本人学校(ミャンマー)、台北日本人学校(台湾)、ハノイ日本人学校(ベトナム)、メルボルン日本人学校(オーストラリア)、パリ補習授業校(フランス)、シュツットガルト補習授業校(ドイツ)、ルクセンブルグ補習授業校(ルクセンブルグ)、セントルイス日本語教室(アメリカ)、オースチン補習授業校(アメリカ)、スコットランド日本語補習授業校(イギリス)
C-3	②ネパール教育支援
内 容	・チャンドラ・キラン基金あて援助の継続(寄附金及び印刷補助)

C-4 コンクールの開催・顕彰

C-4	①第17回・第18回「プリントコミュニケーションひろば」
内 容	第17回 ・コンセプトを再構築し2021年度募集分より再出発した「プリントコミュニケーションひろば」について、応募作品192点(小学校84点、中学・高校108点)の審査会を開催(5月21日、28日)。受賞作品は39点。 ・作品集、個別講評は応募者に向け発送済。作品集は助成物品に登録し、申請受付を開始した。 第18回 ・1月3日から応募を開始し、3月31日に締め切った。応募作品109点(小学校37点、中学・高校72点) ・審査員の応募作品の閲覧について、今回から作品全数をデジタル化しクラウドで事前閲覧を可能にする。

その他の事項

①理事会・評議員会

第50回理事会 5月25日(オンラインによる開催)
 第51回理事会 6月23日(書面決議)
 第52回理事会 6月29日(書面決議)
 第12回定時評議員会 6月28日(オンラインによる開催)
 第53回理事会 11月18日(オンラインによる開催)
 第54回理事会 3月22日(オンラインによる開催)

②役員人事

退任:6月28日 赤堀侃司氏、岡本敏雄氏、斎藤靖美氏の3名が理事を退任
 新任:6月28日 中川一史氏、毛利靖氏、田中正信氏の3名が理事に就任
 杉田洋氏、白水始氏の2名が評議員に就任
 ※ 田中正信氏が専務理事に、斎藤靖美氏は顧問に就任

③新規事業の検討

- ・富安理事、矢吹理事、城島理事による検討会を発足、企画を検討。
3月22日の理事会に企画案を提案し、「障害のある児童生徒の表現創作活動の支援」について継続検討することとした。
- ・事務局の事業企画案として、給付型奨学金事業を検討中。